



平成25年2月25日

卓話 『日本とウズベキスタンの
これまでの関係と今後の展望』

ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金代表理事
バヒリディノフ・マンスール 様

今日はウズベキスタンの文化、歴史と観光的な魅力についてお話しさせていただきます。ウズベキスタンは中央アジアに位置していて人口が3千万人、首都はタシケントです。日本でウズベキスタンに行ったことのある人は0.4%しかいませんが、行ってみたいという人は47%います。それで日本でのウズベキスタンの認知率を高めることを目的に国が文化財団を作り、広報活動やイベントを通じて日本とウズベキスタンの協力関係を強化していくこととしています。

ウズベキスタンは国民の約8割がイスラム教徒で穏健派です。東京と同じように警察も治安体制もしっかりしているので、安心して観光できます。教育水準も高く、非常に紳士的な国です。ウズベキスタンは旧ソビエトの中でも世界遺産が多く集中していて、古代ギリシャやアラブ、モンゴルのチンギスハンに支配された時代もあります。シルクロードの交差点としていろんな人種と文明が交差しているので、ユニークな文化ポテンシャルを持っています。それで我々は中央アジアの観光の拠点として観光立国を目指しています。ウズベキスタンは非常に親日的で、現在、中央アジアとコーカサス諸国の中では日本語学習者の数が一番多く、毎年1700人以上の学生が日本語学科を卒業して日本と関連のある仕事についています。

2012年、日本とウズベキスタンの外交関係樹立20周年を記念する催しが大々的に行われ、タシケントで平山郁夫さんの特別展が行われました。平山先生は1969年からウズベキスタンと深い関係を持っておられて、2001年、タシケントに平山郁夫キャラバンサライというギャラリーを作られ、

2002年にはタシケント名誉市民のタイトルを大統領から与えられました。タシケントにはオペラやバレエを上演する劇場があるんですが、この劇場の建設に参加したのは戦後シベリアに抑留された日本の兵隊たちです。全部で2万5千人いらっしゃったんで



すけれども、その劇場をはじめウズベキスタンの各地でいろんな工場や産業施設を作りました。当時は共産党の時代で、我々ウズベク人と日本人は肩を並べていろんなものを作り、そういうつらい環境の中で友好関係がつけられたわけです。もう85とか90歳と歳を取った方たちですけれども、東北の方が多く、彼らが日本に戻って、最初の日本ウズベキスタン友好協会を福島で作ったんです。もう40年近く活動されています。そういう関係もあって非常に日本に対して深いシンパシーを持っている国です。

今、中央アジアでのファッションやスポーツなどの国際的な催しものは、多くウズベキスタンで行われます。そして2002年から週2回、日本との直行便も飛んでいます。独立して20年経たないうちに日本と航空協定を結び、直行便を始めたことは、2国間の関係の強さの証明になると思います。

是非47%のグループに、皆さんが入られることを期待しております。ご静聴ありがとうございました。